

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和5年度 第3回米原市社会教育委員会会議
開 催 日 時	令和6年3月1日（金）午後7時00分から午後8時25分まで
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3C
出席者および 欠席者	出席者：大谷委員長、上田副委員長、谷口（嘉之）委員、北澤委員、富田委員、 谷口（絹代）委員、日置委員、河地委員、福永委員 事務局：生涯学習課 平山課長、中村補佐、吉田主事 欠席者：川崎委員、角川委員、布施委員
協 議 事 項 等	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県社会教育委員連絡協議会第3回理事会の報告について ・テーマ「米原らしさがいきる学びの場」の方向性、進め方について
結 論 (決定した方針等)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員個人が思う「学びの場」について、各自が情報収集を行い、次回の会議で報告を行う。 ・情報の取捨選択や最終的なアウトプットの方法については、今後の協議の中で決定する。
協議経過・概要	<p>1 開 会 ※半数以上の委員が出席のため、本会議の成立を報告</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 滋賀県社会教育委員連絡協議会第3回理事会の報告について</p> <p>○今後の社会教育近畿大会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育近畿大会については、近畿各府県が輪番制で運営を行い、地区ブロックごとに分科会を担当している。 ・令和9年度大会における分科会担当として米原市が選出される可能性がある（詳細は令和7年度中の理事会にて決定予定）。 <p>○滋賀の社会教育委員活動ハンドブックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在改訂中であり、委員の皆様には令和6年7月頃に配布予定 <p>○他市町の令和5年度の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内各市町それぞれが、テーマの選定や委員の選任、継続性について課題を抱えている中で、他市町が参考になるような取組を考え、調査・研究を進めている。 ・結論として、何よりも、委員自身が主体的に考え、行動することが重要だという意見が出た。 ・本市においても、委員の皆様の前向きな行動をお願いしたい。 <p>4 社会教育委員会会議における協議テーマの選定について</p> <p>委員長) テーマの進め方について何か意見はあるか。 小グループでの協議などやり方は様々であるが、協議だけではなく、直接現場に出向いての調査・研究を行う方向で進めていきたい。</p>

委員) 長浜市主催のワークショップフェスタの企画を行っている。SNS で様々な情報を発信しているが、反響が少ない。皆さんがどのように情報を入手しているのかさえわからない。「学びたい」と思っている人のところにきちんと情報が伝えられるとよい。情報発信の重要性を感じているところである。

事務局) 学びあいステーションについては、パンフレットを年度はじめに 1 回、チラシを随時、自治会に対して全戸配布、回覧により周知している。自治会長の負担を減らすため、全戸配布よりも回覧にシフトしている現状があり、市民の方にじっくりとご覧いただけないことが課題になっている。

委員) 学びあいステーション事業の参加率自体はどうか。

事務局) 例えば、伊吹薬草の里文化センターについて、昨年の講座申込開始日は、人気講座の申込みに朝から 100 人ほどの行列ができていたりしている。参加者のニーズに合った講座やイベントを企画いただいている。

委員) 学びあいステーションはリピーターが多い。一度参加した方は、以降情報を追いつけるので、様々な講座やイベントに参加される。特に親世代は、共通の興味関心を持つ方からの口コミも多い。

委員) そのままでは流れていってしまう情報も、口コミをお願いすると参加率が増えることがあった。

委員) 経済的、時間的要因で参加率は変わってくる。多文化共生協会のイベントを行っているが、参加料無料なので人数が集まる。現状、山東支所の別館で開催しており、人数制限があるため、ニーズすべてを受け入れられていない。受け入れていただける場所があればありがたい。山東幼稚園の跡地についても、自然豊かな恵まれた立地条件のため、若者の屋外活動と合わせた有効活用ができればよい。

委員長) そういった一つ一つの意見が提言となる可能性がある。

委員) 伊吹薬草の里の学童について、普段は 50 人程度の利用だが、夏休みには 100 人超の利用がある。学童以外に子どもたちが気軽に過ごせる居場所があればよい。ルッチや図書館を本庁舎の市民交流スペース

スのように有効活用できないか。

委員) 学びの場を開いている方はたくさんいるが、やはり、自分が知らないところを直接見に行くことが重要だと思う。まずは、見に行くべき場所を挙げることから始めてはどうか。

また、事務局に調べてもらうのではなく、委員が普段の生活の中で見つけたもの、つながっているものを挙げるのが、「米原らしさ」になるのではないか。

委員) 米原の人は自己啓発をするのが好きなイメージがある。個人で様々な取組を行う人を見つけるのも面白い。

委員) テーマが非常に行政らしいと感じる。一人一人が持ち寄ったもの集合体が「米原らしさ」という結果につながるのであり、「これが米原らしさ」だと定義することはできないのではないか。

また、「米原らしさ」とはだれが決めるのかということもある。

委員長) 一人一人が、自分が思う「学びの場」を調査し、それを知らない人に紹介するというやり方が、社会教育委員が自ら考え、行動するという考えにマッチする。

事務局) 皆さん個々に取り組みたいテーマや課題があるはずであり、そこをやわらかく包括的にするために「米原らしさがいきる学びの場」をキーワードとしている。

米原らしさを探すということではなく、様々な角度から見て考えるということで整理をさせていただいている。

副委員長) まとめとして、「学び」はどこにあって、どうなっているかについての現状を委員が手分けしてリサーチし、再度会議で集まった中で、どこまでの素材を学びの場と捉えるか等、進め方を議論していくとよい。

先進国で最も大人が学ばない国が日本と言われている。大人が学んでいない状況で子どもに学びを強制できない。大人が学んでいるところはどこなのか、大人の学びとは何なのか探ること、実態を調査することが重要である。

講座やイベントへの参加料に関する話では、デジタル地域コミュニティ通貨「ピワコ」というポイント制度がある。ボランティア活動への参加等でポイントが貯まるので、そういった仕組みを活用し

	<p>てみるのもよい。</p> <p>委員長) 副委員長が言われたように、学びの場の実態について情報を集め、情報を集約し、マッチングの幅を広げる体制づくりを社会教育委員会で行うという方向性がテーマ的に妥当ではないかと思われる。委員個人が、調査研究、リサーチを行い、「学びの場をこのようにしてほしい、こういう風に使ってほしい」という報告をしていただき、それらを集約して、提言等につなげていくという方向性でどうか。</p> <p>副委員長) 委員だけではなく、行政の力も必要である。学びあいステーションや図書館の事業内容や利用者数といった、行政が持っている情報は非常に有益であり、活用できる。「学び」というものをどこまで定義するかは、進めながら考えていく必要があるが、行政も把握していない学びを委員で考えていくことが重要である。</p> <p>学びの場サイドからの発信を募集するプラットフォームを作るという手もあるが、最終的にどのようにアウトプットしていくか、どこまで持ち寄った情報を拾うかは今後の協議で考えることとし、まずは学びの場を各自がリサーチすることが重要である。</p> <p>委員長) それでは結論として、どんな情報でもよいので、個人が思う「学びの場」について、約半年で情報を集め、次回の会議で情報を持ち寄り、協議の中で重要だと感じるものをまとめていく形で進めていきたい。</p> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事務局より滋賀県社会教育委員募集のお知らせ ○事務局よりスマートフォン相談窓口のお知らせ <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担当課	生涯学習課 (電話 53-5154、内線 2144)